

山城国一ノ宮 賀茂別雷神社

(上賀茂神社)

京都市北区上賀茂本山 鎮座



楼門

本殿・権殿東西に並び、建ち、共に流れ造の典型として国宝に指定されている。文久三年(一八六三)の造替で、他の祝詞舎、透廊等四十二棟の建物は、おおむね寛永五年(一六二八)の再建で重要文化財に指定されている。又、境内全域は平成八年(一九九四)十二月十七日「古都京都の文化財」の一つとしてユネスコが制定する人類共有の世界文化遺産に登録された。

社殿

『延喜式』では名神大社に列し、のち山城国一ノ宮として尊崇せられ、明治以後終戦まで官幣大社として伊勢の神宮に次ぐ、全国神社の筆頭に位した。願があった。

御祭神

神代の昔、本殿の北北西にある秀峰神山に御降臨になり、天武天皇の御代(六七八年)現在の本殿に御鎮座になった。御鎮座以来広く人々の信仰を集め、特に皇室の御崇敬は歴代にわたり、行幸啓は枚挙にいとまならず、国家の重大事には必ず奉幣御祈願があった。

御由緒

御祭神 厄除明神 賀茂別雷神
御神徳 厄除・方除・八方除・電気^かの守り神^も
御由緒 御祭神 厄除明神 賀茂別雷神

■上賀茂神社維持会入会のご案内

上賀茂神社を崇敬しお護りする左記の各種の維持会を結成致しておりますので、ご入会いただきますようご案内申し上げます。

- 一、式年遷宮奉賛会 (五千円以上のご奉賛をお願いします)
- 一、日供講会 (年額 三千円)
- 一、献灯会 (年額 一万五千円)
- 一、崇敬会 (年額 一〇 個人会員五千円以上、法人会員三万円以上)
- 一、曲水宴保存会 (年額 一〇 一万円)
- 御入会者は随時、何口でも申し受けます。
- 御入会者には奉幣をはじめ各祭典のご案内並びに社報「上賀茂」をお送りします。
- 詳しくは当神社までご連絡下さい。

☎〇七五七七八一〇〇一一

交通案内

●市バス

京都駅より⑨西賀茂車庫行、御園橋下車
又は④上賀茂神社行、終点下車
三条京阪及四条河原町より⑦西賀茂車庫行、御園橋下車
二条駅より④上賀茂神社行、終点下車

●京都バス

京阪出町柳駅より 市原・京都産大行、上賀茂神社前下車

●地下鉄

北大路駅より、市バス(北)③京都産大行、御園町下車

●タクシー

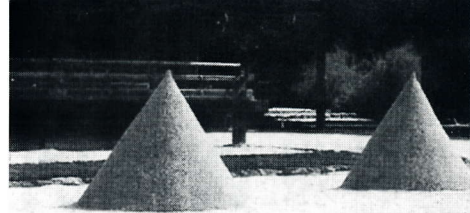
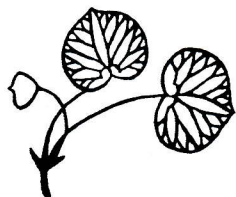
京都駅より25分、地下鉄北大路駅より5分

主な年中祭典行事

- 1月1日 歳旦祭
- 5日 新年寛宴祭
- 7日 白馬姿覧神事
- 14日 御棚会神事
- 15日 御粥神事
- 16日 武射神事
- 初卯日 初卯神事
- 成人の日 成人奉告祭
- 2月3日 節分祭
- 11日 紀元祭
- 24日 さんやれ祭
- 2月の2番目の子の日 燃灯祭
- 3月3日 桃花神事
- 4月3日 土解祭
- 21日 摂末社春祭
- 29日 昭和祭
- 第2日曜日 賀茂曲水宴
- 5月1日 競馬会足汰式
- 5日 競馬会神事
- 12日 御祓、御掃除、神御衣献進祭
- 15日 賀茂祭(葵祭)例祭
- 17日 献茶祭
- 6月10日 御田植祭
- 30日 夏越祓
- 7月1日 御戸代会神事、御戸代能
- 9月8日 烏相撲内取式
- 9日 重陽神事、烏相撲
- 仲秋 賀茂親月祭
- 10月1日 安曇川献進祭
- 17日 神嘗奉祝祭
- 20日 皇后陛下御誕辰祭
- 第3日曜日 笠懸神事
- 11月3日 明治祭
- 12日 御祓、御掃除、神御衣献進祭
- 13日 相嘗祭
- 15日 七五三詣(11月中)
- 21日 摂末社秋祭
- 23日 新嘗祭
- 12月23日 天長祭
- 31日 大祓式、除夜祭
- 毎月1日 月次祭
- (但、1月及7月は15日)

賀茂別雷神社

発行 〒603-8047 京都市北区上賀茂本山339
TEL (075) 781-0011(代) FAX (075) 702-6618
URL=http://www.kamigamojinja.jp/



競馬会神事

烏相撲 九月九日
 菊花を献じ無病息災を祈願する重陽神事を了えて後、細殿の前庭にて童子二十人をして相撲わしめ神覧に供する。その間、刀祢が烏鳴き、烏の横飛びなどをして、頗る興趣のある行事である。烏の行事は八咫烏伝説に由来し、細殿にて葵祭に奉仕された齋王代が御覧になる。

みそぎぞ夏ものしるしなりける 藤原 家隆

風よよぐならの小川のたぐれは

夏越祓 六月三十日
 夕闇が迫る頃、茅ノ輪をくぐる人で境内は賑わう。所々に篝火が焚かれ雅楽が奏でられるなか、橋殿より大祓詞の奏上とともに、人形がならの小川に投ぜられ、祈願者の一切の罪穢が祓い清められる。当神社の夏越祓は古くより有名で、次の百人一首のなかのうたは鎌倉時代の当神社の夏越祓の情景を詠ったものである。

夏越祓 六月三十日

競馬会神事 五月五日
 堀河天皇の寛治七年(一〇九三年)に始まる。早朝より頓宮遷御、菖蒲の根合せ等が行われる。乗尻(騎手)は左右に分れ、左方は打毬、右方は狍鉾の舞楽装束を着け、馬に乗って社頭に参進する。勸盃、日形乗、月形乗、修祓、奉幣の儀を行い、次いで馬場にて順次競馳する。その様子は『徒然草』などにもよく書かれている。蓋し天下の壮観である。京都市登録無形民俗文化財。これに先たち、五月一日には、五日の競馬に出場する馬足の、優劣を定める足汰式がある。

競馬会神事 五月五日



賀茂祭(葵祭) 齋王代参進

立砂
 二ノ鳥居を入ると、細殿の前に一対の立砂がある。円錐形の麗しい御神体山である神山をかたちどったもので一種の神籬(神様が降りられる憑代)である。鬼門、裏鬼門にお砂「清めのお砂」をまくのはこの立砂の信仰が起源である。

祭記
賀茂祭(葵祭) 勅祭五月十五日
 欽明天皇の御代(六世紀)天下風雨順ならず、庶民大いに嘆いたので勅してうらなわしめ給うたところ、賀茂大神の祟りであると判った。そこで馬に鈴をかけ走りせ祭祀を行った結果、五穀成熟して天下泰立となった。このことにより毎年国家的な行事として祭が行われるようになった。これが賀茂祭の起源である。

神前に葵を献じ、全部の社殿には葵を飾り、奉仕員全て葵を着けるので葵祭ともいう。平安時代は殊に盛んであって、「まつり」と言えば葵祭を指すほどであった。現在は五月十五日、皇室より勅使を御差遣になり、旧儀により行われる。その行列は近衛使代を中心に牛車、花傘、齋王代列など総勢五百名、列の長さは八百メートルに及ぶ。

先づ、午前京都御所を出発、下鴨神社にて祭儀を行った後、再び行粧を整えて、賀茂川の堤を北上し、午後当神社に到着。勅使の御祭文奏上、牽馬、東游、走馬等の儀が約二時間にわたり、古儀のまま行われる。清らかな流れと、新緑の境内で行われるこの祭儀の有様は、さながら王朝絵巻を見るが如くである。